

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2014 年 10 月 28 日 (火) 2 限 実施
後期① 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は第 2 回分マークシートを本日中に社会科研究室前のボックスに提出のこと。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問7)に答えよ。(配点 16)

キリスト教はユダヤ教を母体として生まれた。古代イスラエル人(ヘブライ人)は、遊牧民として紀元前1500年ごろまでに(a)パレスチナ地方(カナーン)に移住したが、周囲の大国の圧力のもとで、民族の解体の危機にたびたびさらされた。イスラエル人は、そのような困難な状況のなかで、自分たちの歴史をさかのぼり確かめることによって、民族としての統一性を確認し、将来への希望を養っていった。それが、唯一の人格神ヤハウェ(ヤーウェ)に対する信仰となり、やがてバビロン捕囚などの苦難をへて、ユダヤ教とよばれる一つの宗教となっていた。

イスラエル人の聖典である(b)『旧約聖書』の(c)「出エジプト記」によると、紀元前13世紀に彼らの一部が移住先のエジプトから、モーセにひきいられて再びカナーンへと脱出した。その途中、神は彼らを救出するとともに、シナイ山においてモーセを通じて十戒をさずけ、これを守ることを要求したという。彼らは、これをヤハウェとイスラエルの民との契約であると受けとめ、神を信じ、(d)十戒を中心とする律法(トーラー)にしたがうかぎり、民族の救済と繁栄が約束されると理解した。

その後イスラエル人は、カナーンの地において[1]王やその息子ソロモン王のもとで王国として栄えるが、神と契約した民(選民)としての自覚を失いつつあった。そのようななかで、(e)預言者とよばれる人々が登場し、当時の社会と宗教のあり方を批判した。しかし、その批判もじゅうぶんに受け入れられることなく、やがて王国は南北に分裂したのち、ともに滅ぼされ、とくに紀元前6世紀には、南の[2]王国の多くの人々が捕虜として連行された(バビロン捕囚)。多くの預言者たちは、国を失うことになったのは律法を守らなかったからであると語り、しかし神は、イスラエル人を許し、(f)メシアを世に送るだろうと預言した。こうして人々は律法を守り、いつの日かイスラエル人に栄光がもたらされることを期待し、メシアを待望しながら苦難を耐え忍んだ。

問1 文章中の空欄[1] ~ [2]に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1] [① サウル ② キュロス
 ③ ネブカドネザル ④ ダヴィデ

[2] [① ユダ ② カルデア
 ③ イスラエル ④ フェニキア

問2 下線部(a)に関連して、神の指示に従いカナーンの地に移住した族長として適当な人物を、次の①~④のうちから一つ選べ。[3]

① アブラハム ② ヤコブ ③ イサク ④ カイン

問3 下線部(b) に関して、旧約聖書の内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[4]

- ① 神は自分に似せて、地の土くれから人を造った。エデンに園を設け、美しく食料となる樹を生えさせ、人を住ませた。神は「すべての樹からとって食べよ。ただし、善悪の知識の樹からは食べてはならない。食べると死ぬからだ。」と命じた。
- ② 全世界は同じ言葉を話していた。東の方から異動して来た人々がシナルの地に平地を見つけ、住みついた。かれらは「その頂が天にまで達する塔のある町を築き、我々の名を有名にしよう」といい、天に達する塔を共同作業により煉瓦で作った。神はこれを人間の自己神化の試みとみて、以後作業のできないように言葉を混乱させたという。
- ③ ある日、燃える柴の中に神ヤハウェが現れ、エジプトで苦しむ同胞の解放者としての使命を与えられたイスラエルは、エジプトに戻る。ファラオは祭りのためにヘブライ人を荒れ野に連れ出したいというイスラエルの申し出を拒否し、ヘブライ人への労役を重くした。神はファラオの拒絶ゆえにエジプトに十の災いを与えた。
- ④ 獣の中で最も狡猾な蛇に「それを食べると目が開け、神のように善悪を知るものになる」とそそのかされて、女は善悪の知識の実を食べ、男にも食べさせた、二人は自分たちが裸であることを知り、無花果の葉で腰をおおった。それを知った神は怒り、女には生みの苦しみを、男には食べ物を得るための苦しみを与えた。

問4 下線部(c) に関して、「出エジプト記」以外のモーセ五書（律法）として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① レビ記 ② 申命記 ③ 黙示録 ④ 創世記

問5 下線部(d) に関して、下の【 A 】【 B 】に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

「神はこれらすべての言葉を告げられた。

わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。

あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。

【 A 】を心に留め、これを聖別せよ。

【 B 】そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人に関して偽証してはならない。

隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

- ① 【 A 】律法 【 B 】あなたの父母を敬え。
- ② 【 A 】律法 【 B 】酒を飲んではならない。
- ③ 【 A 】安息日 【 B 】あなたの父母を敬え。
- ④ 【 A 】安息日 【 B 】酒を飲んではならない

問6 下線部(e)に関して、旧約の預言者として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① エゼキエル ② エレミヤ ③ イザヤ ④ ヨハネ

問7 下線部(f)に関して、次のメシアについての説明の中の空欄【 C 】に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[8]

ヘブライ語マーシャハ(油を注ぐ)という動詞の名詞形マーシーアハ(油注がれた者)に由来する語。救世主。ギリシア語ではキリストス(キリスト)と訳された。聖書的伝統によれば、神の介入によって変貌した歴史内世界に立てられる神の支配の代行者をいう。注油は、本来、エジプトのファラオ(王)が官吏、封臣を職に任じる際の慣習であるが、古代イスラエルでは、神ヤハウエがある人物を聖別し、【 C 】に任じるとの考えでなされ、油注がれた者＝メシアといわれた

- ① 使徒
② 神の子
③ 王
④ 預言者

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 26)

イエスの言動は (a)『新約聖書』のなかの (b)福音書にしるされている。イエスは 30 歳のころ、ヨルダン川のほとりで [9] によって洗礼を受け、[10] で改革の第一声をあげた。「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。イエスの「神の国」とは、イスラエル人がメシアの出現に期待した地上の栄光の国を意味するのではなく、人間が自分本位の考え方を改め、自分の内面に実現すべき世界をさしている。

(c)律法の形式的な遵守と、律法にふくまれている信仰に忠実になることを別次元のものと主張するイエスは、十戒での安息日の労働の禁止を守ろうとする人々の前で、病人に治療をほどこす。また「殺すな、殺す者は裁判を受けねばならない」という律法に対して、イエスは「怒る者はだれでも裁判を受けねばならない」と述べ、人に対して怒りや憎しみをいだく者は、それだけですでに人殺しと同じ罪を犯したのであると説く。

すなわち、イエスは行為以前の心の状態を問題にし、律法を守ろうとするときの、神に対して忠実であろうとする心情の大切さを教え、律法の真なる内面化を求めるのである。

イエスは人間が守るべき律法を、二つの戒めであらわした。第一は、神への愛を説く「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」である。第二は「自分を愛するように (d)あなたの隣り人を愛せよ」であり、この隣人愛の教えを、イエスは次のようにも説いている。「何ごとでも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」。この命令は (e)黄金律とよばれ、キリスト教道徳の最高の教えをあらわすものとして、尊重されるようになった。

(f)アガペーのもとに人間はみな平等であり、また貧者や弱者こそが救われるという、人類愛の精神をかかげるイエスの教えは、ユダヤ教の律法主義者や祭司たちによって、彼らの権威をおびやかすものと見なされた。イエスは、神を冒瀆し、社会の秩序を乱すという理由で告発され、[11] の丘で十字架刑に処せられた。

だが、この刑死ののち、イエスは預言どおり復活して昇天したという信仰が、イエスの弟子たちのあいだに生まれた。やがてこの信仰は、イエスこそ神の子メシア(キリスト)であるという信仰となり、(g)ペテロを中心にイエスの教えを説く信徒の集団がつけられた。こうして、キリスト教が誕生したのである。

キリスト教が異邦人のあいだにも広がっていく糸口を開いたのは、(h)パウロである。ユダヤ教の律法の熱心な信奉者であったパウロは、復活したイエスの声を聞くという宗教的体験を得て、神中心の生き方へと回心する。パウロは、原罪にけがされた人類を救うために、神が神の子としてキリストをこの世におくり、【 A 】と考えた。以降、彼はキリスト教の [12] として伝道に従事し、キリスト教が世界宗教として発展していく礎を築いた。

問1 文章中の空欄 [9] ～ [12] に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [9]
- | | |
|-------|-------|
| ① マルコ | ② マタイ |
| ③ ルカ | ④ ヨハネ |

- [10]
- | | |
|--------|---------|
| ① サマリア | ② エルサレム |
| ③ ガリラヤ | ④ ベツレヘム |

問8 下線部(f)に関連して、アガペーについての**新約聖書の言葉**として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

- ① 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。
- ② わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。
- ③ しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。
- ④ 皆、集まって聞くがよい。彼らのうちに、これを告げた者があろうか。主の愛される者が、主の御旨をバビロンに行い、主の御腕となる人が、カルデア人に行くことを。

問9 下線部(g)に関連して、ペテロに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① ガリラヤの漁師ゼベダイの子で、弟子たちのなかでもイエスからとりわけ信頼され、福音書を書いた人物とされる。
- ② イエスの受難の際には3度イエスを知らないと言ったが、回心して教会を組織し、宣教に励んだ。
- ③ キリスト教の迫害者だったが、回心して使徒に加わり、異教徒への宣教者として活躍した。
- ④ イエスの復活をはじめは信じず、「この手をイエスの手とわき腹の傷に入れてみなければ、わたしは決して信じない」と言った。

問10 下線部(h)に関連して、パウロの思想についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。
- ② たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、私に何の益もない。
- ③ 本当に悔い改める者は、罰を求め愛する。だが、「贖宥」の寛大さは、罰を軽くし、罰を避けるようにさせてしまう。
- ④ 人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。

問3 下線部(a) に関して、ラテン教父の人名として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① ヒエロニムス
- ② アウグスティヌス
- ③ アタナシウス
- ④ テルトゥリアヌス

問4 下線部(b) に関して、アウグスティヌスの恩寵についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]

- ① 人間の意志は無力なものであり、聖霊の恩寵なくして善を行うことはできない。
- ② 悪なる神に対抗するために、聖霊の恩寵によって善なる神の力を得ること必要である。
- ③ 恩寵の選びにより、救済される者と地獄に落ちる者はあらかじめ定められている。
- ④ 信仰と希望と恩寵が神から与えられたキリスト者の三元徳である。

問5 下線部(c) に関して、信仰と理性の調和についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]

- ① 哲学の真理と信仰の真理は異なるレベルの独立したものであり、哲学を優先させることによって信仰の範囲を確定した。
- ② 人間理性の自然性と自存性が自覚されるに及んで信仰と理性の矛盾が意識され、哲学が神学から分かれるようになると考えた。
- ③ 信仰と理性とを分離したうえでそのいずれかの優越を主張するのではなく、あくまでこのふたつの内的総合を追究し、信仰の超越性(神中心主義)と人間理性の自律性(人間中心主義)とを、緊張をはらみつつ両立させた。
- ④ 極端な信仰と極端な理性を避けながら、静かな修道生活を送ることで、心の平安を得ることができると考えた。

問6 下線部(d) に関して、スコラ哲学の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① 古来の冶金術、染色術とさまざまな宗教・哲学思想が結合されて生まれた学問
- ② 古代の正統信仰の伝承者として認められた人々の著作および思想の研究
- ③ 近代的な精密科学に発展する以前の、思弁的傾向の強い自然に関する学問
- ④ 教会や修道院付属学校で説かれた神学の婢としての哲学

問7 三位一体についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[31]

- ① 父なる神と子なるキリストが同質ではありえず、異質的である。
- ② キリストは人間としての肉体と魂を有するが、理性に当たるものは神のロゴスである。
- ③ 父なる神と子なるイエスと聖霊は三つの位格を持つが実体は一つである。
- ④ 父なる神と子なるイエスと聖霊は三つの実体が一つの位格に統一される。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 18）

インドの思想と文化の原型を形成したのは、紀元前15世紀ごろに、中央アジアからインダス河畔に侵入した〔32〕人である。彼らは、先住民族を征服しながら東へすすみ、紀元前10世紀ごろにはガンジス川中流域に、氏族制の農耕社会と、宗教性の強い独自の文明をつくりあげた。(a)バラモン、クシャトリア、ヴァイシヤ、シュードラという、いわゆるカーストのもととなった四つの〔33〕が成立したのもこのころである。

カーストの最上位をしめたバラモンは、神々を祭るための複雑な儀式と難解な哲学をもち、地上の神として社会を支配した。(b)バラモン教とよばれる彼らの宗教は、神々への賛歌や祭詞、呪文などを集めた膨大な聖典(c)『ヴェーダ』にもとづくものであった。

紀元前7世紀から4世紀にかけて、『ヴェーダ』に付属する哲学書(d)『ウパニシャッド』が成立し、バラモン教の教義が整えられた。その中心をなすのは、輪廻と〔34〕の思想である。輪廻とは、人間がさまざまなものに生まれ変わりながら、無限に生死をくり返すことをいう。このくり返しを引きおこす原因が、人間の生存中の行為、すなわち〔34〕であると考えられた。この思想は、くり返される死の恐怖や、現在よりも悲惨な境遇に生まれ変わることに不安をともなうものであった。バラモン教では、この不安をのがれ、よりよき生に生まれるために善を積むことが説かれた。のちには、輪廻の循環から解き放たれ、生死を超えた絶対の境地にいたるあり方(解脱)が求められるようになり、『ウパニシャッド』は、輪廻からの解脱のメカニズムを説明した。

紀元前6～5世紀のインドでは、商工業の発達を背景に多くの都市が形成され、都市を中心とした小国家が建設されるようになった。それにともなって、経済力を身につけた王侯や商工業者の力が強まり、バラモンの権威はしだいに衰えていった。

こうした社会変動のなかから、あらゆる伝統や権威を否定し、道徳の無意味なことを説く道徳否定論者や快楽論者など、新しい思想家が登場してきた。これらの思想は〔35〕と総称された。なかでも、紀元前5世紀に(e)ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)によって開かれたジャイナ教は、現代も信徒を持つ宗教である。

一方、バラモン教は先住民族の土着信仰と結びつきながらしだいに変質し、2世紀から3世紀にかけて現在のヒンドゥー教の基盤が形成され、民衆のあいだに定着していった。

こうした状況のなかで多くの人々に影響をあたえたのが、ゴータマ＝シッダッタの教え、すなわち仏教である。

問1 文章中の空欄〔32〕～〔35〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [32] ⎧ ① フェニキア ② ドラヴィダ
 ⎨ ③ アーリア ④ テュルク

- [33] ⎧ ① プルシャ ② ヴァルナ
 ⎨ ③ ハリジャン ④ ジャーティ

- [34] ⎧ ① シヴァ ② カルマ
 ⎨ ③ サンサーラ ④ ダルマ

- [35] ⎧ ① 六師外道 ② 六波羅蜜
 ⎩ ③ 六道輪廻 ④ 十大弟子

問2 下線部(a)に関して、ゴータマ・ブッダが所属していた階級として最も適当なもの、下の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① バラモン ② クシャトリア ③ ヴァイシャ ④ シュードラ

問3 下線部(b)に関して、日本に伝来したバラモン教の神として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]

- ① 阿修羅 ② 帝釈天 ③ 恵比寿 ④ 弁財天

問4 下線部(c)に関して、神々の賛歌をおさめた最古のヴェーダとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① アタルヴァ・ヴェーダ ② サーマ・ヴェーダ
③ ヤジュル・ヴェーダ ④ リグ・ヴェーダ

問5 下線部(d)に関して、ウパニシャッドの思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 宇宙のあらゆる現象の根底には、それを生み出している不変・絶対の原理としてのアートマンがある。
② すべての生きもののなかには何に生まれ変わっても変化しない自己としてのブラフマンがある。
③ ブラフマンとアートマンが同一であることを自覚すれば、絶対的なものとの合一が実現し、人間は輪廻から解脱することができる。
④ 解脱を実現するためには、瞑想と禁欲、苦行などに代表されるような出家修行は一切不要である。

問6 下線部(e)に関して、ジャイナ教についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① アヒンサー(不殺生)を徹底するために、外出するときはマスクと箒を持つ。
② 苦行を通して真理を体得し、靈魂の不滅を説く。
③ 宝石商や金融業などの商人階級に信者が多い。
④ 食事についての規定は特になく、肉食も許されている。

第5問 次の文章を読み、下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 20)

妻子をもち、また(a)王子として何ひとつ不自由のない生活をおくっていたゴータマであったが、その苦悩はこの世を支配する王の力でもどうすることもできないものであった。苦しみのくり返しである輪廻の輪を断ち切って、永遠の安らかな命を得るにはどうしたらよいのか。その解決を求めたゴータマは、29歳のとき、ついに出家の道を選んだ。

出家したゴータマは、6年間の修行のあいだ、指導者にしたがって(b)苦行を重ねたが、真に魂の平安を得ることはできなかった。苦行の無意味なことを自覚した彼は、35歳のとき、(c)ひとり菩提樹の下に端座して深い瞑想にはいり、さまざまな誘惑にうちかかってついに(d)悟りを開き、仏陀となった。

ゴータマが悟ったのは、この世の苦の原因と、それを取り除く方法であった。

彼はまず、この世を完全な満足の得られない世界であるととらえる。人は、この世に生まれたがゆえに年をとり、病を受け、死の苦しみを経験しなければならない。愛する者とはいっつか別れねばならず、いやな相手と出会うことも避けられない。望んだものが手に入らない苦しみも、だれもが経験するところである。そもそも、(e)人間の五蘊の活動自体が、苦しみに満ちている。何ごとにも永遠不変の満足が得られないこの世は、苦に満ちた世界である。

人間は、五蘊の集まりである。しかし、その五つの要素はどれもがそれ自身として存在するのではなく、他に依存して存在するにすぎない。これは、人間以外のものでも同様である。したがって、人間のなかにも事物にも、不変な実体としての我は存在しない。これを[41]という。

この世には独立不変のものは何ひとつ存在せず、すべては一定の条件・原因によっておこってくるという、仏陀が悟ったこの[42]を縁起の法という。

この世に生きる人間の願いや欲望は、現実の世界を支配する縁起の法と根本的に矛盾している。人間は、苦しみが避けられないことを知っているにもかかわらず、それを直視することなく、不死や永遠を願っている。仏陀は、一切の苦しみの原因はこの矛盾のなかにあると考えた。すなわち、この世の苦しみは、この(f)縁起の法を真に知ることができないことによってもたらされると考えたのである。

仏陀によれば、人生の無常が苦しみとして受けとめられるのは、人間が永遠不滅を願うからである。しかし、永遠不滅なものは存在しないのだから、この願いは、ありもしない実体(我)に執着する誤った認識にもとづいている。すなわち、縁起についての無知が我執を生じさせ、(g)三毒をはじめとする、さまざまな迷いとしての[43]を生み出すのである。

人間は、[43]や我執を断ち切り、縁起の法を正しく知ることによって、悟りの境地である涅槃に達することができる。(g)人間の理想は、迷いも苦しきも消えた涅槃の世界にいたることである。

問1 文章中の空欄[41]～[43]に入れる最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [41]

① 諸法無我	② 涅槃寂静
③ 諸行無常	④ 一切皆苦

- [42]

① ブッダ	② パーラミータ
③ サンガ	④ ダルマ

問8 下線部(f)に関して，四諦・八正道の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 苦諦とは，人生は苦であるという真理である。
- ② 滅諦とは，人生の苦は煩惱からおこるという真理である。
- ③ 正精進とは，正しい生活のことである。
- ④ 正念とは，正しい瞑想のことである。

これで問題は終わりです。